

関西 学友会



2012

ロータリー米山奨学生学友会(関西)



Rotary Yoneyama Scholarship Alumni Association

28

Table of Contents

Table of Contents	2
二期目を迎えて	3
米山奨学生学友会（関西）の皆様へ	4
米山奨学生学友会（関西）の皆様へ	5
米山奨学生学友会（関西）の皆様へ	6
米山奨学生学友会（関西）の皆様へ	6
来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと	7
私の夢について	8
私の夢について	9
来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと	9
私の夢について	10
来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと	11
夢を求め、考える	12
米山奨学生として感じたこと	13
私の人生目標	14
花火が咲いた時	15
米山奨学生として感じたこと ～シンガポール出身である私の見地から～ ...	16
日本留学の成果	17
日中関係に関する私の感想	18
日中関係に関する私の感想	19
夢と絆	20
あなたは架け橋になっていますか？	21
米山奨学生として感じたこと	22
ロータリー米山奨学生学友会(関西)2010年度会計収支決算報告書	23
ロータリー米山奨学生学友会(関西)2011年度会計予算(案)	23
活動報告	24
リンク集	24
募集要領 (2012年度会報).....	25

二期二年目を迎えて

国際ロータリー第 2660 地区 米山奨学生学友会(関西) 会長

朴 日

(元世話クラブ：大阪東淀ちゃやまち RC)



国際ロータリー第2660地区 米山奨学生学友会(関西)の会長に就任してから二期の二年目を迎えました。

会員の皆様をはじめ、ロータリアンの皆様に支えられてここまで来ました。本当にありがとうございました。

ご存知のように、当学友会は元米山奨学生の組織として設立され、元及び現米山奨学生間の交流を通じて親睦及び互助を促進すると共に、国際親善及び世界の平和に寄与することと、財団法人ロータリー米山記念奨学会の事業の発展に寄与することを目的としております。

今後も学友会の設立目的達成のために引き続き努力したいと思います。

さて、米山奨学金ですが、今年もたくさんの留学生が米山奨学金を受給することになりました。奨学生は金銭面での支援を受けるだけでなくカウンセラー制度による精神ケアの援助も頂いているからこそ、学業に専念することができます。

奨学金受給生は皆様の期待に応えるように頑張っていたいただければ、大変うれしいです。

昨年3月11日、東北で発生した地震ならびに津波により、東北関東地域は甚大な被害に遭われました。大きな災害をきっかけにたくさんの方々には「絆」の大切さをが大事であることを改めて感じたと思います。

学友会のメンバーはすでにロータリークラブと「絆」で結ばれております。学友会の一人一人のメンバーがこの「絆」を大事に大事に思い、学友会の設立目標が達成できるように微力でも尽くしていただければ幸いです。

今年学友会の何玉翠さんが関西学友会のHPをリニューアルしました。また学友会のフェイスブックページも作成しました。関西学友会のHPとフェイスブックのツールを利用して元米山奨学生とロータリークラブ、元米山奨学生間の「絆」を深めて強化していきたいと思います。

仕事、生活などで皆さんご多忙であることを認識しております。

一言でも皆様におかれましては、当学友会の使命につきまして特段のご理解をいただき、今後の維持、発展にご支援を賜りますようお願いいたします。

【知識】

[ロータリーの誕生]

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、シカゴに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスは、この風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。こうして1905年2月23日にロータリークラブの原点となるシカゴロータリークラブが誕生しました。ロータリーとは、会員が持ち回りで順番に、集会を各自の事務所で開いたことから名付けられました。

それからは志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれ、国境を越えて、今では世界166ヶ国の地域に広がり、クラブ数 32,176、会員総数 1,214,127人(2004年12月31日RI公式発表)に達しています。そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

米山奨学生学友会（関西）の皆様へ

2011～2012 年度 2660 地区米山奨学委員会 委員長

武島 秀吉

(大阪御堂筋 RC)



カウンセラーの皆様は、是非この一年でどれだけ米山奨学生をしっかりと育てる事ができるのかという事に挑戦していただいたいと願っております。一般の奨学金制度と米山奨学の大きな違いは、やはりカウンセラー制度がしっかりと根づいているという事で有ります。

クラブのメンバー全員で米山奨学生を応援していただけるような体制を考えて欲しいと思います。来年2月には、スピーチコンテストも第二回目として開催する予定で有ります。ぜひ、その際は、クラブメンバー全員が応援に来てくれるほどの、関係が出来ればと思います。

彼ら彼女らは、故郷を離れ、時には寂しい時もあると思います。そんな折にも、日本のお父さんお母さんである、皆様の存在がどれほど大きいのか、計り知れない者があると思います。何卒宜しくお祈りします。

また、委員長様は、何時も大変寄付金集めにご尽力頂きありがとうございます。寄付金も、色々な方法を考えて頂き、楽しくあつめていただければとおもいます。例えば、私の長男が数年前青少年交換でアメリカに行っていた際、帽子を持って各テーブルからドネーションを集める役をしてくれと、頼まれ、集めたお金を担当社に渡すと、お～それは君の物だよといって、こずかいをくれたそうです。本人は驚きとともに、ユニークなやり方に感動したようです。ただ、寄附を下さいというより、ひとひねりお願いします。

3.11以降、米山で外人を支援するより、日本人が大変や。と言う論調が多いかもしれません。

しかし、実際そうでしょうか？

もう一度、米山の原点に帰って考えて見たいと思います。

私のオヤジの弟、私のとっては、叔父さんは、アメリカ人にショットガンで頭を撃ち抜かれ、亡くなりました。それも、お父さんお母さんの目の前で。私はこの話を聞いた時、可愛い息子を目の前で殺された、お爺ちゃんお婆ちゃんはどうなにか辛かったか、悲しかったか、恐ろしかったか。私も、心が締め付けられる様な感じがしました。

これは、第二時世界大戦時の沖縄での出来事です。私の親父は、沖縄県本部町渡久地という、沖縄ではヤンバルと言われる北部地域出身です。現在はチュラ海水族館が近くにでき、観光客も大勢くる様な地

域です。

かつては、汐の流れがみて取れるほど、美しい海が広がる大変静かな田舎でありました。

あの戦争で、多くの悲惨で残酷な物語を小さな島に作ってしまいました。

今、現在の日本でも、東北地方を襲った大地震によって多くの悲惨な家族を作り上げてしまっておりま。地震は自然の災害、戦争は人為的な災害かもしれませんが、将来また再びこの様な災害に合う可能性が我々の子供達、孫達の世代であるかもしれなという事。

いや、我々の世代でも可能性は大いにある訳です。

特に、東海、東南海、南海地震が同時発生した場合、日本沈没の憂き目に合う事も、逃れ難き可能性として存在する訳です。そのような事態に遭遇した時、日本だけでは、いかんともし難いのは火を見るより明らかであります。そういった未来への危機管理の一環として世界との心の通った連帯という事が、必要不可欠な事であると思われま。

我々の米山事業は、そんな未来の安全を担保する一環であるはずで。この様に考えますと、打算で奉仕活動しているかのように感じるのですが、見返りを望まない奉仕でも、必ず何かの良き作用があるはずで。もちろん、見返りを考えてするものではないと思いますが、世界との友好関係を築くというのは、この複雑怪奇な世界情勢の中にあって一朝一夕に築けるものではないと思いますし、継続的に作り上げて行かねばならないと思います。其の意味においても、米山のような優秀で日本に対する想いを持った人材群を作る事は、必要不可欠な事業かもしれません。皆さんは如何思われますか？

現在の政治で友好的関係が築けるのでしょうか？

経済の発展に伴って、真の友情がどれほど作って行けるのでしょうか？

はなはだ、心もとない気がします。

さて、沖縄の言葉で『けらまー見えしが、まちげー見いらん』というのが有ります。那覇空港に行かれたら海側に大きな窓が有りますが、その海の彼方に見える島影は慶良間諸島です。けらまーとはこの慶良間島の事です。こんな遠い島は見えるけれど、最も近い睫毛は見えないという意味です。この言葉を聞いたときに法華経の如来寿量品にすい近兒不見という言葉の思い出しました。これも近いのにかえって見えないという意味です。三千年前からこう言った考えが有る

のかと思います、時代が代わり国が違えども、感じる事は同じであると思います、この言葉の解釈には色々あると思います。人の事は良く見えるけど、一番身じかな自分の事は解らない。最も身じかな家族の事を一番理解していなかったり～、人間近すぎると、かえって見えない、もしくは、見なくなる事があると思います。

そして、もっと近い国中国や韓国の事を我々ほど理解しているのでしょうか？かつてシンガポールのトップスターである、ディックリーがよくバナナという歌を歌っておりました。これは、バナナは、皮は黄色いけれども、中身は白い。つまり、黄色人種である、彼らは、黄色い肌、考え方は全て

欧米型だと言うのです。これは、我々日本人にもあてはまるかもしれません。戦後日本人は、脱亜入欧と言って、欧米に学び続けと頑張ってきた。お陰で、ジーパンを履きTシャツを着て、ハンバーガーを食べながら、ハリウッド映画を見るような生活を私もしておりました。正に欧米化の日本人で有ります。そして、やはりお隣中国の事を全然わかっていませんでした。

でも、今、皆さんのすぐ側には、アジアから来た優秀な学生がいます。彼等から学ぶべき事も沢山あると思います。ぜひ、この機会を十分活用され、身じかな所にも目を向ける機会にさせていただければと思います。

米山奨学生学友会（関西）の皆様へ

2011～2012 年度 2660 地区米山奨学委員会 副委員長

田中 真人
(大阪北 RC)



この度、皆さんが米山奨学生を無事終了し学友会のメンバーとしてロータリー精神を受け継がれ活動していられることを非常に頼もしく思っております。

日本に留学され、縁があつて米山奨学生となられ、在籍された期間は短かかったかもしれませんが、各担当ロータリークラブのカウンセラー始め多くのロータリアンとの出会いを通して、新たな気付き・発見、そして多くの感動を得られたのでは無いですか。地区開催のスピーチコンテストや米山奨学生終了の歓送会では、奨学生自らの経験や感動から発する言葉は多くのロータリアンや奨学生の心に響くものだったと思います。たとえ国が違えども人と人の心の響きは同じではないかと思ひます。この様に

して我々ロータリアンと米山奨学生の心の絆は結ばれていくのを実感いたしました。

この米山奨学事業は半世紀以上の歴史を持つ、ロータリーの中では日本独自の奨学制度であり、創設時期の原点は、外国人留学生の支援を通じて“平和日本”と自国との架け橋になっていただく事でありました。しかしながら半世紀を経て環境も大きく変わり、奨学制度のあり方も貧窮支援から知的国際貢献に変化してきており、支援する側の心情も微妙に変化してきているのが現状であります。

学友会の皆さんが未来への大きな夢を持って、広く国際的に活躍され、日本と自国だけでなく世界の人々と強い絆を作り“世界平和”に貢献されることを祈念申し上げる次第であります。



米山奨学生学友会（関西）の皆様へ

2011～2012 年度 2660 地区米山奨学委員会 副委員長

西谷 雅之

(大阪城南 RC)



平素はロータリー米山記念奨学会の活動にご協力賜わり、ありがとうございます。

また、昨年11月11日にはR I 2660地区、地区大会において「奨学生による母国のお茶サービス」を企画しましたところ、奨学生のみならず学友会の皆様にもお茶の提供やお手伝いなどご尽力を賜りました。お陰さまで大変好評、盛況で「ハイライトよねやま」にもとりあげて頂く事が出来ました。

しかしながら、学友会が一般のロータリアンと接するこのような機会はまだまだ少ないように思います。米山奨学制度は知っていても学友会は「？」というロータリアンも決して少なくないのではないで

しょうか。

米山奨学生としてロータリアンと接する事が出来るのはせいぜい1～2年です。その後の人生は米山奨学生の身分が終了するまでの人生の3倍も4倍もあります。是非皆さんには米山終了生がロータリー活動やロータリアンと係わる活動を活発に行っていただきたいと思います。

学友会の名を高め、存在感を高める事によってロータリアンもより米山奨学制度に対する理解が深まっていくのではないのでしょうか。最後になりましたが学友会の今後益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

米山奨学生学友会（関西）の皆様へ

2011～2012 年度 2660 地区米山奨学委員会 副委員長

吉田 悦治

(大阪大淀 RC)



先日2012年度の米山記念奨学生の面接試験がありました。

書類に目を通し留学生と直接お会いして、質問等するのですが、色々教えられる点も、多々あります。留学生の皆様は国々の習慣と小さい時からの教育が本人の「今」を形成されておられ、日本に來られて文化の違いを感じられ考え方の違いに日々感動されている事でしょう。円錐形は、上から見ると丸ですが、横から見ると三角形です。

米山奨学生に推薦され、在籍される期間は短いかもしれませんが、カウンセラーの方々と又ロータリーの活動を間近に見、一緒に体験され、ロータリーの精神を受け継ぎ、世代を超えた交流を持つ事により、より深く自分云うものが見えてくるでしょう。

皆様は直線をかけぬけるのではなく、寄り道をしたり、立ち止まったり、たまには逆立ちしたりしてより多くを自分の物にして下さい。

「過去があるから未来があるのです。」・・・。



来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと

大阪大学大学院

人間科学研究科・人間科学専攻

嚴 暁全(中国)

(世話クラブ：大阪天満橋RC)



私は中国の上海から参りました嚴暁全と申します。今は大阪大学大学院の人間科学研究科で現代社会学を勉強しています。来日して4年目になりました。今までの留学生活で感じた日本と中国の違いについては、主に三つがあります。

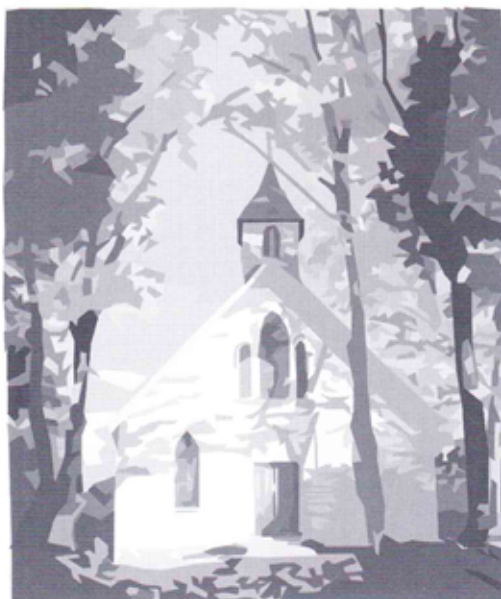
まず、最も感じたのはサービスについての違いです。日本では、デパートからレストラン、ホテル、交通機関、銀行、コンビニ、百元ショップまでサービスを提供するあらゆるところでは「おもてなしの精神」に溢れている。お客は商品を買ったかどうか、値段の高い商品を買ったかどうか、どんなお客が来ているのかといったことを問わず、正社員からパートまでいつも笑顔で礼儀正しく挨拶をしてくれます。また、アフターサービスもいいです。一方、中国では、近年、顧客を第一に置くということが徐々に重要視されてきたが、日本のような非常に良いサービスが提供できるようになるまでは、非常に長い期間がかかるのではないかと思います。私が経験して一番印象深いのは、3年間通っている美容室のスタイリストに見えた「おもてなし精神」です。昨年の時点では帰国しようと思って、スタイリストに「今のヘアスタイルがとても気に入っているけど、帰国したら、たぶんこういうヘアスタイルにはならないかな」と言うと、彼は「じゃ、その髪の毛をカット

する方法を紙に書いて渡すわ。帰国したら、むこうのスタイリストに見せればいい」と返事してくれました。その時、私は彼の態度に驚くほど感心しました。なぜなら、中国では、自分のスキルを赤の他人に教えるスタイリストはほとんどいないからです。

二つ目としては、礼儀正しさについての違いです。昨年、東日本大震災が起きた時に、被災者たちは冷静に対応し、依然として列に並んで買い物をしたそうです。恥ずかしながら、我々中国人は日本人と同じような対応ができないでしょう。また、日本の病院や学校、区役所など、商売が行われていないところでも日本人の礼儀正しさを感じています。中国では、そのようなところでは、生意気な態度をとる人が多いのではないかと思います。

三つ目としては生活習慣についての違いです。例えば、冬では、我々中国人は温かい食べ物や飲み物が好きで、冷たい水をあまり飲みません。日本は中国と違って、レストランで食事をすれば、冷たい水を飲まない人は少ないでしょう。

私が感じた日本と中国の主な違いは以上になります。今後、引き続き日中両国間の架け橋として、お互いの文化や良さを伝え続けることで、異文化理解を深め、日本と中国の間の Win-Win 関係を築くことの一助になりたいと思います。



私の夢について

大阪産業大学大学院
経営・流通専攻

ピューピュートウエ (ミャンマー)

(世話クラブ：大東RC)



私は、ミャンマーからまいりましたピューピュートウエと申します。2005年4月に来日し、今年で7年目になりました。今は大阪産業大学に在学中です。日本に来たばかりの時は、自分の日本語の勉強不足のため、日常生活に少し困ったことがありました。なぜかという、日本と母国ミャンマーは他国であるので、経済発展を含め、生活や文化、習慣などに違うところは数えられないほどあるからです。今はすっかり日本の生活に慣れたとは言えませんが、毎日楽しく過ごしております。

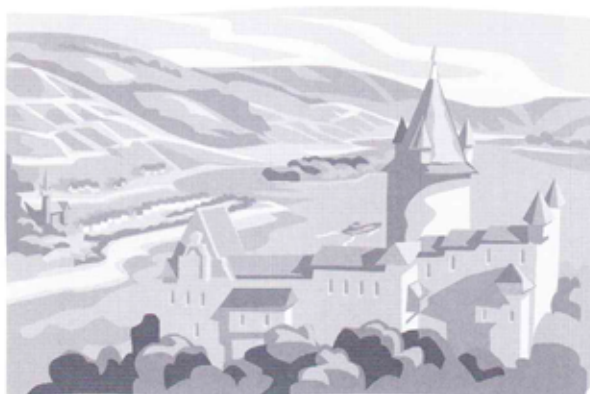
まず、日本に来て一番感動したのは日本人の時間の観念のことで、日本ではどこでも時間通りに動いています。ミャンマーにいた頃、日本に行ったら、約束の時間をちゃんと守るようにいわれました。私は時間を守るくらいは大丈夫だと簡単に思っていました。実際、日本に来て日本人の時間の厳しさには度肝を抜かれました。一秒、二秒遅れるくらいで、電車を乗れなかったことも度々ありました。ミャンマー人は時間に関してはあまり厳しくありません。友達との待ち合わせ時間も昼くらいであれば大雑把でいいし、国内の交通機関も時間通りではなく、一時間くらいの遅刻も珍しくはありません。だから、最初は日本人が電車が遅れているとき、文句ばかり言っていることに驚きました。

また、ミャンマーの学生は授業中に両手を組んで授業を聴くのが小学生から教育されています。それで、私は日本に来て、授業で手を組んで授業を聴いていました。またあるとき、大学の授業が終わった後、担当の先生に呼ばれて、こう言われたことがあります。「ピューピューさん、何で授業中に両手をいつも組んでいるの」と。私は即座に「先生、ミャンマーではこの態度は“先生の授業をよく聴い

ています!”という尊敬を意味する行為なのですよ」と答えました。そのとき、先生は「あっ そう〜」と怪訝な顔をして答えました。これは、あとで分かったことですが、日本ではこの態度はあまりよくないようで、私が取った行為は自分を偉そうにしているように思われたようです。

最後に、私が不思議だと思った日本人の行動の一つ紹介しておきます。それは仕事先のことです。朝の出勤に限らず、昼、夜の出勤でも、「おはようございます!」と挨拶をしてみんなが仕事について、「お疲れ様でした!」と言って仕事を終わることです。最初のころ、私は「日本人はちょっと変わっているな〜」と思いました。実は私自身ローソンのバイトの終了時に店の人に「お疲れ様でした」といわれたんですが、そのとき、私は「あっ、私全然疲れてないですよ」と言いました。そうしたら、店の人が笑っていました。私はそのことがよく理解できなかったのも、ある先輩に聞いてみました。その方からは、出勤のときの『おはようございます』は、その人に対して「これから元気よく働きます」ということ、一方、仕事終了後のときの『お疲れ様』は「元気よく働いてくれてありがとう」という意味合いです」と教えていただきました。ミャンマーではこのような挨拶は一切なので、最初のうちはなかなか慣れませんでした。今はではその言葉を聞くだけで、元気をもらっているといった感じです。

このように、私(ミャンマー人)が日本への留学で最も母国と違うなと感じたのは習慣違いであります。だから、私は日本で多く経験を積み、日本とミャンマーの共通点を学ぶとともに、相違点を認め合って、より良い日本とミャンマーの交流を深めて行きたいと思っています。



私の夢について

大阪大学大学院
医学系研究科病態制御医学専攻

タイ・ジャユ・アンナ(シンガポール)

(世話クラブ：大阪城南RC)



“生命”という広大なテーマを、科学をもって説明するにはどうすべきであるか？ということに、私は強く惹かれていました。例えば、一粒の種子がどのようにして大樹へと成長するのか、重力がいかにはたらくのか、すべての物質を構成する原子の組合せはどのようにして決まったのか。こうした私の興味をサイエンスの世界へ導いたのは、高等学校での生物学担当教師との出会いでした。彼は私達に、遺伝学、“サイエンスにおける遺伝とは？”を教えてくださいました。どのようにして遺伝子制御が行われているのか、また、あらゆる生命体に共通している遺伝子について、これこそが私が将来チャレンジしたいと考える分野であることを気づかされました。そこで、私は、単純とも曖昧ともいえる“genetic engineer”になるという目標のもと、大学の生命科学部に入学しました。この学部生の中に、遺伝子学を含む多岐に渡る分野について理解を深め、生命科学に対する興味がさらに高まりました。最終学年の時には、微生物学において一年がかりの研究プロジェクトを行うこととなりました。このプロジェクトを通じて、生物学研究遂行における基礎を身に付けました。教授をはじめ研究室員との交流を重ね、私は生物医学研究を追及することを、自分の人生における長期的目標として定めることにしました。

私の母国、シンガポールにおける科学の進歩は非常に著しいものではありませんが、日本やアメリカにおける既に確立され、卓越したサイエンスという枠組と比較すると、まだまだ長い道のりがあります。幸運にも、大阪大学で学ぶこととなった私は、最先端の研究を経験するチャンスを得ました。自分をさらに高め、独立した研究者を目指し、大阪大学大学院医学系研究科に進学しました。ここで、今日急速に発展している、がんと免疫学の二つの分野を学んでいます。がんは世界中で主要な死因となっています。何十年にも及ぶ研究により、がんに対する新規治療法の探索が続いていますが、課題は多く残ったままです。私にはがんで亡くなった家族がいるので、個人的にも非常に興味を持っています。がんの新規治療法を見出すことは、癌研究者皆が抱えている夢でしょう。とはいえ、私は自分の研究が、この先10年、20年もしくは30年の癌研究に貢献する、もしくは還元されるものであれば満足かもしれません。博士課程を卒業して帰国後、シンガポールにおいて研究の進歩に貢献すべく、可能な限り沢山の知識や技術を身につけることができるよう、懸命に学んでいます。

来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと

関西大学
総合情報学部

キンキンス(ミャンマー)

(世話クラブ：門真RC)



私はミャンマー、ヤンゴンから来たキンキンスです。2007年5月に来日しました。2007年～2009年は奈良にある白鳳女子短期大学国際人間学専攻で勉強しました。2009年4月から関西大学総合情報学部に編入学し、現在は大学4年生で、もうすぐ卒業となります。就職は日本、大阪で決まりました。

来日して自分の国と違うなと思ったことはたくさんあります。まず、国民性が違います。日本は挨拶が多い国だと思いました。私の国では挨拶の言葉はありますが、普段はあまり使わないです。例えば、知り合いと道ですれ違った時とか「どこ行くの？」

とか夜の散歩で会った場合は「ご飯食べた？」とか、このような挨拶をするのです。また、日本人は時間を守ることはきちんとできていると思います。私の国では、時間を守らないことがないですが、時間にゆるく日本ほど厳しくないと思います。例えば、日本では電車やバスなどの交通機関に関しても、出発や到着は正確で時間通りであることに驚きました。少しでも遅れると、お詫びのアナウンスが必ず流れます。そのように、他人のことまで細かく考える常識のある日本人の性格には関心せずにはいられません。私の国では、電車やバスなどの出発や到着は時間通りではないです。

それに、お詫びのアナウンスも流れません。

日本人は小さなミスであってもきちんと謝ります。「すみません」「ごめんなさい」という言葉をよく使います。悪いことをしていないのに、謝るぐらいの過ちをおかしていないのに、「すみません」や「ごめんなさい」という言葉をよく言います。私の国では、本当に悪いことをした時や大した過ちをおかした時にしか人に謝らないです。

また、日本人は電車やバス等を待つ時や店などで人が多くなる時、きちんと列を作って並ぶことが特に素晴らしいと思いました。それは人としての道徳意識があるからだと思いました。「自分が先だ」と先を争うわけではなく、きれいに列を作って自分の順番を待っている風景は、日本のいたる所で見られる。それは日本の国民性の一部が表れているように思えました。

また、日本で何か落したり、なくしたりしても必ず還ってきます。日本に来てから、いろいろな物をなくしたことがあります。ほとんど還ってきて、驚きました。一回定期券ケース無くして、自分でもどこで無くしたか全然心当たりがなかったのですが、落し物センターから「定期券ケース預かっていますので、取りに来てください」という電話がかかってきて、本当に驚きました。また、学校外で学生証無くしましたが、学校に届いていたこともありました。本当に感動です。私の国では、何か無くしたら90%還ってきません。

来日して思ったのは、「優れた国民がいるからこそ日本なのだ」です。国の発展には、その国にいる一人一人の国民性が大事だと思います。私は、自分の国の発展を願いつつ、日本でいろいろなことを学んでいます。

私の夢について

大阪大学大学院

歯学研究科統合機能口腔科学専攻

Sanam Bakhshishayan (イラン)

(世話クラブ：大阪住吉RC)



I am a PhD student in Osaka University, graduate school of dentistry. Being one of the pioneer universities in medical science, Osaka University provides its students a challenging spirit and sense of responsibility for contribution to the society. Feeling the urge to improve my career, I started PhD course in Osaka University from 2009. PhD course provides me a good opportunity to deepen my knowledge about what I should do as a dentist, more profoundly, independently and practically. As a graduate student, I am finding new ways for maintaining and recovering human health through studying about diagnoses and treatments of diseases and disorders which occur in oral and maxillofacial region. In addition, I am doing fundamental research, related to neuronal mechanisms that can contribute in discovering proper treatments for such diseases. With the change of society, new problems threaten quality of life (QOL). For example, aging and various diseases of later time can be mentioned. Responsibility of health care providers, such

as dentists, is to find the diagnosis and proper treatments for such diseases which is increasing tremendously.

After finishing my study I will try my best to transfer what I have learned, not only the academic aspects but also the cultural aspects, to people who can benefit from that. I will continue my research to find better treatments and discover unknown aspects about the diseases related to oral and maxillofacial area. This helps me to reach my dream; to contribute in making a happier and healthier society.

Receiving the "Rotary Yoneyama Memorial" scholarship, participating in the meetings of rotary club and exchanging experiences and ideas with other members provided me much better insight on how I can contribute into my society. I noticed not only the knowledge but also fighting spirit, team work and the passion to help others are essential characteristics. Therefore, I want to improve such characteristics in myself to become a better connecting bridge between my country and Japan.

来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと

大阪大学大学院
工学研究科応用化学専攻

ウンドス(中国)

(世話クラブ：大阪そねざきRC)



私は、中国内モンゴル自治区のシリングル盟出身の留学生です。モンゴル民族です。2005年4月に来日し、新潟産業大学での4年間の勉強を経て、現在、大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻の博士前期課程で、環境に優しい無機顔料に関する研究を行っています。私の趣味は、スポーツで、特にサッカーと水泳が大好きです。

本題に入る前に、この場を借りまして、東日本大震災において被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げますと共に、早期復旧を願っています。

私は、来日してから6年半間が過ぎており、これまで、新潟県と兵庫県との二つの地域に住んだことがあります。この6年半間の留學生活の中では、いろいろなことを体験し、自分のふるさととあまりにも違うことを日々感じています。

私は、食べ物に関して、好き嫌いが無いと言えませんが、来日した最初のころは、それにずいぶん困りました。私たちモンゴル民族は、昔から五種類の家畜(羊、山羊、馬、牛、ラクダ)を放牧しながら、季節に応じて遊牧するという生活をしていました。そして現在は、地球温暖化や政策などの影響によって、このような遊牧生活が制限され、定住化するようになりつつありますが、依然、昔のような食生活を維持しており、肉を主な食べ物としています。特に、骨付きのままに煮たり、小さく切ってスープを作ったりしてから食べる習慣があります。これは、モンゴル高原の寒冷な気候に対抗するために、脂肪の多い食事を摂取しなければならないからです。日本では、「肉食おう」と言ったら、大概牛肉や豚肉を思い浮かばせる人が多いと思いますが、ふるさとである内モンゴルでは、ほとんど羊肉(特に骨付きの羊肉)を指しています。今は、大体慣れていますが、国や地域によって食文化が違うことをこの身で経験できました。

次に、田舎の生活が違います。日本に来た最初の四年間は、新潟県の柏崎市に住んでいました。日本では、田舎と言われている柏崎市を、自分のふるさとと比較して、その差に目を丸めていました。ふるさとでは、水道がないため、人々の飲料水を始め、家畜にやる水まで、全部井戸水を使っており、日常

生活で使う水は、家から凡そ200メートル離れた井戸から汲んで来ます。このため、水はとても貴重なものであり、日本人のように毎日風呂に入るところか、一ヶ月に一回シャワーを浴びることもめったにありません。また、電気が常備されておらず、風力発電或いは太陽電池を使用し、その発電量が天気に左右されるため、電力供給が不十分であります。このため、テレビのニュースなどを随時確認することができず、通行人や近隣の牧民たちとの雑談から情報を得ることが多いです。勿論、空気がきれいなどのメリットやいろいろと不便であるなどのデメリットという田舎としての共通点はありますが、ふるさとと違って、日本の田舎には電気と水道が完備されていることに感心しました。

また、私は、ふるさとにいた時に、「日本は環境のきれいな国である」としばしば耳にしていました。その時、私は「かつて、同じだったはずなのに、なぜ日本の環境は今でもあんなにきれいで、ふるさとの日は日々悪化しているのか」とずっと考えていました。そして、来日した後のある日、犬を連れて散歩している日本人が片手にビニール袋を持ち、犬の糞をちゃんと取って、地面を水で流してから、前へ進むということをはじめてみて、本当に驚きました。後で、日本ではこれが常識であると聞きました。他にもいろいろありますが、私は、「このような、社会的な常識となっている個人個人の小さな行動や努力で、きれいな街を築き上げているんだな」と思いました。日本人が細かいところから着手し、環境を保全していることは、モンゴル人であれ、他の民族であれ、学ぶべきではないかなと思います。でも、日本人の環境と付き合いながら生活していくという考え方は、モンゴル民族が移動しながら自分の生まれ育った環境を守るといった意識と似ていると感じました。

最後に、「人それぞれ」と語れるように、これらの違いは私個人の考え方であり、そして、国際人間としての第一歩を踏み出した以上、民族の間や国の間における様々な相違点を理解し、相手の文化を尊敬すると共に、自分の文化を理解してもらうことを通じて、相互の交流に貢献することが本分であるとしみじみ実感し、筆を置きます。

夢を求め、考える

大阪商業大学
総合経営学部 経営学科
李 在原 (韓国)

(世話クラブ：大阪堂島RC)



時にはあほになること・10代から70代まで友人を作ること・思いを伝えること。今、私が心がけていることでありますが、なかなかうまくいっていません。これがいわゆる失敗というものでしょうか。

ロータリーの皆様・関係各位の皆様並びに米山奨学生の皆様！こんにちは。本年度より国際ロータリー米山奨学生になりました李在原（イジェウォン）と申します。

今私は東京発の新幹線の中に居ます。堂島RCの竹田秀道様のお陰で、東京を体験することが出来ました。この東京の旅は私自身に対する質問の時間というテーマとして過ごさせて頂きました。そして、少なからず、何らかの答えを見つけることが出来た大変貴重な旅となりました。以前、竹田様より竹田様自身は「世に役立つために生まれた」という人生の意味づけの大変難しい話を頂きまして、私も何のためにこの世に生まれてきたのか。どのように生きるべきなのかと以前よりもっと具体的に自分自身に求めてみました。しかし、その答えは一向に見えてきませんでした。私の未熟さ故の当たり前前の結果でしょう。

2011年、東日本大震災による犠牲者、そして元サッカー日本代表の松田選手の死によって人生について大変考えさせられ、私は何によって人々に憶えられたいかと考えるようになりました。人

間だからこそ、当然これからも価値観や考え方は変わっていくでしょうが、人々に意見を求めつつ、自分自身で考えた結果、今現在、私が強く望んでいる夢は家族を愛し、家族から愛される、つまり人々を愛せる人間になることだと気付きました。そのために自分自身を愛せることこそが究極的な物事の本質ではないかと思えます。そして、それに基づき、物事に対して真正面から向き合う真摯な人になることです。非常に抽象的な言葉で意味は難しく、理想主義者だと思われるかも知れませんが、正直なところ、私自身何になりたいかよく判りません。ですから夢を持っている方々を見ると羨ましく思う時もあります。

最近非常に魅力的な方との出会いから感性というものに関しても考えるきっかけがあり、感性の必要性を認識しました。このように人との出会いを何より大切に、変化に敏感に対応しつつ、常に新しいものを創造するためのイノベーションと改善を行うべく、人を大切にする愛心と物事に対して真剣に向き合う真摯な私でいられることが私自身の目標に近づくための夢であると、未熟ながら私は確信しています。繰り返しになりますが、家族を愛せる真摯な人になることが、私の夢であり、その夢に近づけば必ず、目標は達成できるでしょう。そのためにもこれから感謝、情熱、高い志を忘れず、精一杯精進していきたいと思っておりますので皆様方の応援、ご指導の程よろしくお願い致します。どうも有り難うございます。



「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

最優秀賞

米山奨学生として感じたこと

大阪市立大学大学院

創造都市研究科都市ビジネス専攻アジア・ビジネス研究分野

張夏荷(中国)

(世話クラブ：大阪なにわRC)



皆様

こんにちは。

張夏荷と申します。よろしくお願いたします。

2011年4月11日、桜の花のようなバッジをつけることによって、私は2011学年度の米山奨学生になりました。その日からたくさんのロータリアンそして私のカウンセラーの白方先生とのご縁が始まりました。

私の名前には冬の夏という漢字が入っているので、先生はいつも親切に「なっちゃん」と呼んでくださいます。去年の6月にある日、例会が終わった後、先生は「なっちゃん、お誕生日おめでとうございます。日本のお父さんから初めてのプレゼントです。気に入るかしら」と言いながら小さな封筒を渡してくださいました。その封筒を開けてみると、目の前に千円札、五百円札、百円札、そして五百円玉、百円玉、五十円玉、十円玉、五円玉、一円玉が一枚ずつありました。先生は私の生まれ年に発行された日本円を集めて誕生日のプレゼントとしてくださったんです。「なっちゃん、この十円玉ですね、家や会社の貯金箱にあるお金を全部出して、一枚一枚を確認しましたが、なかなか見つからないので、他のロータリアンにも頼んで、みんなFacebookで「十円玉探し」の呼びかけもしてみました。たくさんのロータリアンが協力してくれたおかげで、やっと昨日この一枚の十円玉が見つかって、なっちゃんの誕生日に間に合ったんです」と白方先生はこうおっしゃいました。その話を聞いた瞬間に、一生懸命その十円玉を見つけようとしている先生たちの姿が頭に浮かんで来て、どこから暖かいものが胸にこみあげたようで、涙がこぼれそうでした。自分の生まれ年に発行された日本円を誕生日のプレゼントとして戴いたのが人生初めてです。このプレゼントは私にとって、一生の宝物になりました。その日、もっと意外なことに、何名かのロータリアンの方々が誕生日のお花とケーキを用意してくださって、福の神という一人のロータリアンが経営されているカラオケボックスで米山奨学生になってから初めての誕生日と一緒に祝ってくださいました。私は寂しくない、親に離れても一人で日本に留学に来て、誕生日を覚えてくれる人一緒に祝ってくれる人がいるとその日からわかりました。

米山奨学生になってから、よく白方先生とメールを交換しています。「なっちゃん、明日急に寒くなるそうで、風邪を引かないように気をつけてね」「論文は大変ですが、頑張ってくださいね、日本にいるたくさんのお父さんが我が家の娘を応援していますよ」と白方先生はたとえ私と会えなくてもいつもメールを通じて励ましてくださっています。よく先生とメールを交換していますので、先生も前からメールを使われているだろうと思いましたが、実は先生も私のカウンセラーになってからよくメールを使うようになったので、毎回メールを打つのに20分、30分かかったそうです。ちょうど今日まで先生からいただいたメールは229通ありました。その一通一通のメールに込められているロータリアンが一人の留学生に対する励まし、一人の娘に対する心配りは私に前へ進む勇気を与えてくださいました。

人と人の付き合いって何が一番大切なのか？障害のない言葉でしょうか、同じ色の皮膚でしょうか、それとも同じ所の出身でしょうか？いいえ、そうではありません。米山奨学生になってからこの一年間、たくさんのロータリアン、そしてカウンセラーの白方先生とのふれあいを通じてその答えを見つけました。それは違う文化を尊重しながら、心を開いて相手を受け入れようと努力することです。そして、相手もきっとそれを感じて心を開いてくれるはずで、心の付き合いができてはじめて信頼関係が構築でき、そして本当の友達になれたのです。友達になったら、戦争なんか起きないはずでしょう。それも平和社会を築くためにもっとも大切なことではないだろうかと考えています。

この桜の花のようなバッジをつけた日から、世界で平和な花を満開させることが私の使命になりました。これからどんな人生が私を待っているか正直にいまの私はまだわかりません。しかし、これからの十年、二十年、そして一生でも米山奨学生になってから学んだことを忘れずに米山奨学生としての誇りを持って、自分の使命を果たしていこうと思っています。

去年の誕生日の日に、私はたくさんのやさしい笑顔に囲まれて、目を閉じて誕生日の願いをかけました。

「日本にいるたくさんのお父さん、お母さん、本当にありがとうございます。ずっと健康に幸せにいてほしい。」

以上です。ご静聴ありがとうございます。

「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

優秀賞

私の人生目標

大阪大学大学院

言語文化研究科 言語社会専攻

ユオン バン ビン(ベトナム)

(世話クラブ：池田RC)



ただ今、御紹介に与りました。ユオン バン ビンと申します。最初のユオンが姓で、真ん中のバンはミドルネームで男女の区別を表し、最後のピンが名前です。ベトナムの習慣にならって、ピンと呼んで頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

私が日本語の学習さらには日本への留学を目指したきっかけは二つあります。一つ目は、中学2年生の時に「おしん」という日本のテレビドラマを見て日本の文化や日本語に興味を持つようになったことです。二つ目は、日本は先の世界大戦で、国土は焦土と化し、苦難の時代を過ごしたと習いましたが、その後、見事に復興し、いまや世界大国としての地位を築いています。その謎、秘訣を知りたいと思ったことです。

私が初めて日本を訪れたのは、6年前の2005年のことで、留学先は沖縄県に新しく建てられた名城大学という公立大学でした。専攻はあまり大きい声では言えませんが、日本語・日本文化でした。私の日本語は、この通りまだまだですが、日本人の知り合い達は「なかなかうまいよ」と誉めてくれます。そういう方々はきっと国際感覚の豊かな持ち主だろうと思います。

海外留学或いは異国での生活は苦しいものと聞かされていましたが、日本の友人達や大学の先生方が親身になって、学業ばかりでなく、生活の面までいろいろと相談に乗って下さいますので、苦しいと感じたことは殆どありません。異国にあつて、最も心に残るのは、やはり人々の人情であると思います。私は生涯にわたり、日本の方々の人情に学び、日本の優れた伝統に学び、そして日本の文化、言語を深く深く学び続けようと決心しています。

日本に住んでまず感じたことは、人々が教育に熱心なことです。勉強が好きであろうが、嫌いであろうが、子供達はできるだけ進学しようと懸命になっています。国際交流にも熱心です。私の国では、経済力が乏しいために、勉強への強い意欲を持っていても、進学は難しく、大きな課題となっています。あるいは、途中で通学を断念せざるを得ない子供達も大勢います。また、日々の生活に追われ、国際交流をする余裕もないため世界情勢に疎い面があります。そこで将来は、日本語教育者として、まずは自国の人々に日本語や日本の文化を伝えることを

主眼とし、更には、できるだけ多くの日本人にベトナムの言語や文化を理解してもらえよう助力したいと考えています。国際的な文化交流を促進し、国際社会に貢献できる「日本語教師」を育て、ベトナムの子供達に十分に勉強できる環境を整えてやることも必要です。そのためにある種の教育機関を設立することも目指したいと考えています。

日本は全国津々浦々まで、学校、道路、港などの公共施設が完備していますし、住宅も人々の服装も立派です。かつて戦争で荒廃したにも関わらず、見事に復興したのは日本古来の優れた精神文化を有し、更には教育を最重要視した結果であることを知りました。私の国、ベトナムも周知のように長い長い戦争を経験しました。その再建には、どうしても日本から多くを学ぶ必要があります。また、これからのベトナムにとって、若い世代が教育を身につけ、様々な分野で活躍していくことが重要だと思います。同時に日本が抱える様々なマイナス面をも反面教師として学び取り、ベトナムの教育に反映させなければならぬと思います。そのためには具体的にどうすればいいのか。人間こそが最大の資源です。日本に留学して教育の重要性を心から痛感しました。皆さんには笑われるかもしれませんが、科学技術のみならず、精神文化の領域や国際学術交流にも貢献できる青年を育成する高等教育機関をベトナムに設立しようと決意を固めています。

私は、時々おかしな質問をする癖があります。「日本人は働きすぎ、勉強しすぎ」とよく言われますが、私の目から見ると必ずしもそのようには見えず、寸暇を惜しんで勉強や仕事に励んでいるような雰囲気を感じないことがあり、これについてどう思うかと聞いたら、日本人達は「外国のこと、外国の文化は表面だけ見てはわからないよ」から始まり、長い長い説明してくれます。結局のところ、繰り返しになりますが、今日の日本を築いた原動力はその高い精神文化にあるのであり、私達としてはそのことをしっかりと学び取り、分析し、自らの祖国の再建に生かすしかないと心に深く刻んでいます。幸い、ベトナム人も日本人と同様に勤勉で困難な状況にも耐え得る強い精神力があります。

「自分さえよければいい」という自己中心的な考え方をしない人間教育を実践し、地球上のすべての人が平和に生きていける社会を築きたいと思います。無論一人ですることではありません。多くの人々と手を携えてやって行かなければなりません。いくら学問

に優れていても、偏った考え方では、人間の幸福には繋がりません。人類の将来を明るくするものにはなりません。

言語・文化の研究をそれだけに終わらせず、高い精神文化を学べる教育機関をベトナムに設立することにより、日本・ベトナム両国の発展、ひいてはアジア、否、地球上に住む人類すべてがともに手を

携えて仲良く生きていける理想郷を実現したいと思います。その理想を高く掲げて日々を過ごしております。共に歩むことに共感してく下さる方々の輪が大きく大きくなることを心から念じております。

御清聴、有難うございました。

「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

岡部ガバナー特別賞

花火が咲いた時

大阪ハイテクノロジー専門学校

孫宏亮(中国)

(世話クラブ：大阪東淀ちゃやまちRC)



今年の夏の終わりに、淀川の空に一つ目の花火が咲いた時、私はその美しさに言葉で言い表せない感動と気持ちを持ちました。光り輝く夜空を仰ぎ見ると、心から笑顔になる気持ちで満たされていました。そうして、知らず知らずのうちに、口元がかすかに上がっていました。日本に来て、大阪ハイテクノロジー専門学校の日本語学科に入って、日本語を一生懸命勉強しました。寮に入って日本人の友人もできました。アルバイトも少しし、環境面から日本を知るようになりました。この4月からは、臨床工学技士学科に進学し、私は今、専門の勉強を必死で学んでいます。こうやって考えると、自分の道を前に突き進んでいることが感じられます。自分の一生は花火を一瞬の輝きにかけて咲くことができるように、私の目標は自分自身を持ち、国家資格をとるといふ勝利の果実をもぎとることです。

花火と言えば、私も花火のような輝かしい人生を持ちたいと思っています。もしかしたら、他の人より、自分の光が微弱かもしれませんが、自分の持っている力を生かして、光を出したいです。

ですが、私は自分自身が、優秀な人だとは言えません。いつも十分な自信もないし、いつも大勢の人の前に出ると緊張します。そして、学歴も高いとは言えませんので、私は時々「心はあっても、力が足りない」と感じます。

今、思い出しても恥ずかしくて、顔が赤くなりますが、最初に奨学生の自己紹介のことを覚えていて、あの時話した内容をはっきりと覚えていて、私の可笑しい言葉で、会場が静まり返っていた様子が忘れられません。でも、私

の世話クラブのお父さんの中田さんは「他の人より、自分の能力が足りなくても、他人の経験を参考にして、次につなげてやってみよう」と私に言うて下さいました。お父さんにこんな状況にしてと謝ったら、お父さんは「悪くないよ」と笑って下さいました。その瞬間、私の心にかかっていた黒い何かが取れ、幸せな気持ちが感じられました。

私は大阪東淀ちゃやまちロータリークラブに参加させていただくことになりました。寮にいるときやアルバイト先では埋められない一人暮らしで寂しいと感じていた私に、異国に新しいファミリーができました。お父さんだけではなく、お母さんとか、叔母さんと呼べるような人もいます。いつも皆さんと話をしている、今まで見えなかったことやわからなかったことがわかるようになります。いつも国のニュースを教えてください、特に国で事故が起きたとき、皆は国の影響を聞かれるだけではなく、私の両親や親族に影響がなかったかどうか心配して尋ねて下さいます。親族ではないだけに、そのような気遣いに触れて、私は人間の優しさをしみじみと感じます。そして、私のいろんな生活状況を聞いてくださり、家族の暖かい愛情が感じられます。居心地がよく、幸せだなとしみじみと感じます。

普通の生活を過ごしてきた私ですが、この普通の生活を変えるために、留学の道を選びました。人生の長さには限りがあると感じられます。何事もあきらめず、人生の各章を書き記したいです。そのため、これからも、絶えず学び、絶え間ない進歩を続けたいと思います。これらの経験を自分で選んだ臨床工学技士の道に生かしていくこと、それは、患者さんの命を守るという職業に就いて活躍することだと思います。

あの日の最後の打ち上げ花火は、私の笑顔と共に輝かしく花開きました。

「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

近藤バストガバナー特別賞

米山奨学生として感じたこと ～シンガポール出身である私の見地から～

大阪大学大学院

医学系研究科病態制御医学専攻

タイ・ジャユ・アンナ(シンガポール)

(世話クラブ：大阪城南RC)



この度は米山奨学生に選ばれた事を、大変光栄に思っております。昨年の4月以降、大阪城南ロータリークラブのお世話になりながら、クラブの方々及び他の奨学生の方との交流を深めて参りました。そうした中で、私の中で大変よい思い出となっている事についてお話します。

非常に印象深く残っている出来事のうちの一つは)5月の田島童園園児との交流会です。この交流会は私が奨学生となって初めての行事であり、この時まで、Rotarianの意味を明確に理解していませんでした。しかし、この行事が私に気づかせてくれました。大阪城南ロータリークラブの12人の会員の方々が、田島童園から24人の児童たちと8人の先生、私ともう一人の奨学生を招待して下さい、スポーツやイチゴ狩りを楽しみました。児童たちがとても興奮しながらバスケットボールを楽しんだり、誰が一番イチゴを沢山食べるかを競っている様子は非常に心温まる光景でした。昼食を待っている間、2人のとても可愛い女の子が私の膝に座り、一緒に指遊びをしました。この時、ロータリーの目指す社会奉仕“ロータリー精神”への理解が高まったような気がします。

印象に残っている出来事のもう一つは、ロータリークラブの方々との交流です。奨学生となって最初の数ヶ月、会員の方々と親しくなるための機会が何度かありました。どの方も、とても私に対

して親切で、いつの数ヶ月、会員の方々と親しくなるための機会が何度かありました。どの方も、とても私に対して親切で、いつも日本について新しいこと、例えば言葉についてや、そこから派生される文化など、を教えてくださいました。城南クラブのみでなく、ガバナー事務局や学友会も私に奨学生としての責任や皆様からの期待に沿えるよう精一杯の努力をするよう、私に教えて下さいました。私が驚きと共に非常に心響いたのは、私の研究がきつとうまくいく、と皆様が強く信じ、応援して下さいます。研究は時に困難を極め、うまく進まないことがあります。皆様の温かい思いを感じ、皆様を失望させることのないよう、懸命に研究に励みたいです。

私はロータリーで知り合った方々から教わる、新しい事をいつも楽しみにしています。ここで学んだ社会奉仕やネットワークをこれからの私の人生に生かし、人として成長し、より良い研究者となることを望んでいます。シンガポールに戻ったら、がんと免疫の分野における研究者としてのキャリアを築いていきたいと思えます。ここで知り合った方々、特に東南アジア出身の奨学生とのつながりを大切にしながら、ロータリー精神から学んだことを胸に刻み、今後の人生を歩んでいきたいと思えます。

この度はこのようなスピーチの機会をいただき、ありがとうございました。残りの研究生活も頑張ります。



「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

参加賞

日本留学の成果

大阪産業大学大学院
経営・流通研究科

尚 暁敏(中国)

(世話クラブ：香里園RC)



歳月の流れは走馬灯のごとく、私が日本に留学してから早くも9年になります。留学として長すぎるかもしれないですが、顧みれば来日から修士課程を修了するまで十分な留学生生活を過ごしたこと、自分を誉めてやりたいと思います。それは日本の文化と習慣の理解、また色々な人と新しい学問との出会いに恵まれました。

初めて来日した時は一事が万事大変でした。一番難しく、早く乗り越えなければならぬことは言葉の壁でした。私は来日してから、日本語の勉強を始めました。一日も早く日本語が良く話せるように、学校での授業は文法や漢字の読み方をしっかり覚え、アルバイト先の工場では日本語の単語から日本人と語り合い、コミュニケーションが取れるようになりました。2年間日本語学校で日本語を学び、そして、1年間専門学校で日英通訳を専攻した結果、日本語能力試験1級に合格し、TOEIC試験550点を取り、大学に進学することができました。

また、留学生活で得られた大事なことは色々な国々の人との出会いです。学校に通い、学校の寮、賃貸マンション、国際交流会館などに住み、いろいろなアルバイトを体験したおかげで、日本、マレーシア、インド、ネパール、ミャンマー、フィリピン、台湾の人をはじめ、米国、イギリス、ブラジル、南アフリカなどの人まで至り国際豊かな

人々と交流できました。お互いに日本語と英語を使って会話することが多かったです。その時の私は国がどこであれ臆することなく平気に人と付き合うようになりました。これらの人間関係は中国だけにいたのでは絶対に得ることのできない、私にとってこの留学生活における大きな収穫であったと言っても過言ではありません。異文化の交流を深めていくうちに、私にとって国際的なネットワークの始まりもできました。

最後に、最も重要なことは学問の世界を広げたことです。私は学部から修士課程に至るまで専攻が変わりました。大学では経営学部で経営学、大学院修士課程では経営・流通研究科でロジスティクス戦略を専攻しました。大学での授業を受けるときには大変でしたが、修士論文を作成するとき、研究内容を解決・解析するとき様々な分野で学んだ知識が総合的に働くので、それがすぐ役に立ちました。そして、大学の先生方の熱心な指導及び日本人の友人から親切なアドバイスなどのおかげで、修士論文は順調に完成しました。

9年間日本で過ごせたことは私自身にとって大きな自信と財産になりました。外国で生活することは大きなストレスを伴う中で生活することができたことは、自分自身のこれからの大きな支えになることを確信すると同時に、一人ではこの留学をなし遂げることは不可能だと悟り、私をご支援くださった多くの人々への感謝の気持ち、また、人間の優しさの重要性を強く感じました。



「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

参加賞

日中関係に関する私の感想

関西医科大学

脳神経外科博士課程

李 一(中国)

(世話クラブ：大阪城東RC)



皆様

こんにちは。奨学生の李一と申します、中国からきました。2010年から、大阪城東クラブによりお世話になっております。

二年前、選考を通して、ロータリーの奨学生になりました、正直ほっとしました。こんなありがたいことで、さすがに卒業までの生活は一切安心できました。その一方、ちょっとほかとは違う奨学生制度ですねとも思いました。最初は正直に言うと、毎月例会に参加することにたいして、ちょっと怖かったです。すなわち、自分が一介外国から来た普通の留学生で、こんな社会エリートばかりの立派なクラブで、自分の言行は皆さんに受け止められるか、嫌われないかというようなコミュニケーション上の恐怖感を持っていました。ですが、だんだん、時間が経つと、こういうような恐怖とかというような感じがいつの間になくなりました。いつも例会会場に行くと、みなさんが「李君こんにちは!」「頑張っていますか?」と暖かく声を掛けてくれます。いつもカウンセラーの西條さんが「李君、最近元気ですか? なにか困ることありましたら、相談に乗りますね。」。「あ、

李君、今月の近況報告もお願いしますね、そんなに長くなくていいですから。」と親切に言っていています。だんだん、私も例会を楽しめ、そして、例会の勉強見学もできるようになりました。

今は、もうすぐ二年になりますが、クラブのみなさんと触れ合いをするほど、みなさんの素晴らしさ、そして、ロータリークラブその自身の理念の素晴らしさを実感してきます。二年の間、クラブは国内だけではなく、海外にも進出、ポリオの撲滅とかにも力を入れています。ロータリーの精神として平和、愛、助け合い、社会奉仕で、それは本当に国境を超える人類共通する宝物で、世間を美しくするものです。ロータリーの人はこんな大事なモノを守って、実践していて、どれほど立派なことでしょう。羨ましいです、自分でもこういうような人間になりたいです。

二年の間、私はずっとクラブに恵まれています。いつも考えるのはどのように恩返しできるのかということです。どのように頑張って、みなさんの希望を答えるのです。今私は出来るのは、必死に能力を身につけ、そして、ロータリーの精神を貫いて、ロータリーのやり方でやっていくことです。それは、私の恩返しの仕方です。

ありがとうございました。



「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

参加賞

日中関係に関する私の感想

大阪産業大学大学院工学研究科

環境開発工学 博士課程

陳 霞明(中国)

(世話クラブ：大阪船場RC)



こんにちは。私は陳霞明(チン カメイ)と申します。中国福建省から参りました。今は大阪産業大学工学研究科環境開発工学の博士課程を専攻しています。主に水中の微量な有害有機物質の分離・分解方法を勉強しています。世話クラブは大阪船場クラブです。今日はこの10年間の留学生活の中で感じた日中関係についてお話させて頂きたいです。

周知の通り、日中交流は二千年の歴史もあります。そのうち、中国と日本の留学生交流の歴史は今から約1300年余り前の中国の隋・唐時代から始まっていました。そのとき、日本から遣唐使(遣隋使)を派遣し中国と日本の文化交流に大きく貢献しました。日中文化交流の先駆者ともいわれる遣唐使は200年以上にわたり、当時の先進国であった唐の文化や制度、そして仏教の日本への伝播に大いに貢献しました。今でも、漢字や仏教などの文化をはじめ、当時の建築文化を反映する建物が多く残されています。しかし、日清戦争以降の激しい戦争を含む近代の歴史に関する記憶は、今になっても両国民の心の中においてまだ生々しいものです。

この10年間の留学生活の中で、靖国神社の参拝や漁船衝突などのことから、反日・反中デモが起きました。とくに、漁船衝突事件以降2011年の日中両国の相手国に対する印象調査から、この一年で顕著に悪化していることが明らかになりました。日本人の約8割、中国人の約6割がお互いの国に対してマイナスのイメージを持っていました。お互いがマイナスイメージを抱く理由で、6割を超す日本人が挙げているのは、「尖閣諸島での漁船衝突の際の中国の対応」、「資源エネルギー、食料の確保などでの中国の行動」、「軍事力を増強した中国は日本に対する軍事的脅威」も増加しています。中国では依然戦争に対する認識が強いが、震災後の「日本政府による原発対応」や「日本政府の尖閣諸島に対する対応」を挙げる中国人が4割程度います。またお互いの国民性について、半数程度の日本人が中国人を「勤勉だが、模倣的、頑固、非協力的、利己主義で信用できない」と見ています。中国人の日本人に対するイメージは「勤勉で創造的で柔軟性はあるが、利己的で思いやりがなく好戦的」です。日中両国関係が悲観的に見る人の割合が高まりました。一方、民間レベルでの人的交流は重要であると考えて

いる人は8割もいました。日中関係は関節痛のような気候・気温変化により痛みが現れると感じました。こうした結果になる原因が何なのでしょう。国民の感情はなぜ容易に煽ることができたのか。混乱している日中関係の出口は一体どこにありますか。そして、日中関係に影響する様々課題に対する新たな認識をすることも重要であると考えられます。

日中関係を大きく影響することを考えると、近代の歴史問題に対して日中両国民の間で、戦争の本質と戦争責任の認識に関し、相互に理解するにはかなりの困難が存在すると最も感じました。第二次世界大戦が終戦してもう60数年経ちましたが、この問題は自分と同世代の若い人が精神的負担に感じています。2006年～2008年までに3年間をかけて「日中歴史共同研究委員会」が開かれました。日中の歴史研究者の冷静な議論を通じて日中間の歴史認識をめぐる対立を和らげることを目的にスタートしました。共同研究作業開始後3年以上を経て、ようやく戦後史部分の欠落した報告書がこうして公表されることになりましたが、なかでも歴史認識の違いがいまでも浮き彫りになっています。中国が「日本の侵略の象徴」として挙げる1937年の南京事件(南京大虐殺と中国側はいう)です。日本側の論文が「日本軍による残虐行為の犠牲者数は、日本側の研究では20万人を上限として、4万人、2万人などさまざまな推計がなされている」としているのに対し、中国側論文は「南京戦犯裁判軍事法廷は南京事件で虐殺された人数は19万人以上にも上り、ほかにも散発的に虐殺された者が15万人以上おり、被害者総数は30万人余りと認定した」としています。しかし、一般庶民の目線から見ると過去の戦争は正義か非正義なのかその結論をまとめれば良い。歴史に対する罪悪感を持つことではなく、過去の戦争で多く犠牲者が出ました。このようなことが二度と再発しないように歴史を再認識しともに平和な社会を作っていくことです。

グローバル化した世界では、各国の経済的結びつきが強くなる中で、日中両国がライバルでありながら、経済的分野にとどまらず、政治や外交にも深く関わってくるので、共通の認識を築き上げていくことが必要となるのです。信頼関係を深化させることは、安全保障の面においても、良い影響を及ぼすでしょう。両国民の間で異文化交流において一番重要なのは、他の文化についての関心と尊重であると思う。異文化に対する

見えない壁と感じた人もいますが、その壁は結局、自分あるいは自分が属した社会が作ったものです。偏見の目から離れて心を開いた交流を通じて本音を常に理解しようとする姿勢は非常に重要であると思います。

日本に来てアルバイト先の社長に「あなたは日本人を恨んでいますか」と質問されました。その時、社長の質問に対してどう答えていいかわかりませんでした。この10年間の留学生活の中で、多くの

方々にお世話になりました。研究の事をご指導して頂いた先生、実験の悩みを解決して頂いた先輩達や毎日の生活の中で共に頑張っていた皆さんに恨みを持つことができますか。その答えは一つしかありませんので、恨みを持つことができないのです。

最後に、このような問題は次の世代に残さないように願っております。

ご清聴ありがとうございました。

「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

参加賞

夢と絆

大阪産業大学大学院
経済学部博士前期課程現代経済システム専攻

安 金花(中国)

(世話クラブ：千里メイブルRC)



みなさん、こんにちは！千里メイブルロータリークラブから参りました安金花と申します。

10万人余りの来日留学生の中で年間たった800人、自分が米山奨学生の一人になれるとは本当に夢でさえ思わなかったことでした。大学からの結果発表の電話に、私は「本当ですか？間違いないですか？」と何度も確かめた後、信じられない思いと飛ぶような嬉しさで「やった」と叫びながら部屋の中を何回も行ったり来たりしました。

卒業まであと一步、正直日本に来て約6年の間、自分自身は周囲のいろんな人々に恵まれ、勉強とアルバイトの両立ができたことだけでも満足していました。しかしこのような喜びもロータリーに対する理解を深めてゆくたびにだんだん「本当に自分が奨学生でいいのか」という心配に変わっていくようになり始めました。

特にホームページやロータリーの友などで紹介されているロータリアンの方々、また奨学生の先輩方々の活躍ぶりを拝見するとその悩みはますます膨らんできました。そして自分はオリエンテーション懇親会の際お会いした、当時面接官のお一人でもあった和田先生とカウンセラーの小山先生にこのような悩みを明かしました。すると和田先生からは「責任を持つての真剣な面接を行った結果で、あなたは只運が良かっただけで選ばれたのではないよ」というお話を頂き、小山先生は「安ちゃんならいける」という言葉で落ち込んでいた私を励ましてくださいました。

私がお世話になっている千里メイブルロータリークラブの方々から大変大きな応援と様々な面での勉強の機会をもらっています。特に毎回例会で皆さんからのユーモラスで奥深い卓話内容はいつも終わるのが早くて惜しいと思うほど魅力的です。クラブで村田会長を始め、大変な病と闘いながらも明るい笑顔で短歌作りが上手な岡部先生、音楽や体験を通じてのインディアン文化に詳しい山田先生等素晴らしい方々にお会いできたことももう一つの幸せだと思います。

「夢と絆」今回私がこのようなテーマを選んだのはもう一つの理由があります。それは2011年の「今年の漢字」公募のニュースを見たときです。3.11東日本大震災という悲惨なことがあった昨年、1位原子力発電所の「原」を始め、「災、被、震、波、放、電」など候補になった前7位までが当時の状況を意味する漢字でした。しかしやっとならぬと8位に「絆」という漢字が出てきて、このような時期でも奨学生として応援されている自分としてはすごく共感したのです。

そして、お互いの夢というものは自分一人で頑張ったら実現できるものではなく、人々との触れ合いから、学び合い、認め合い、助け合い、高め合いありの中で自然に出来るものだとやっとならぬと気付きました。今後ともこのことを忘れずに、素直に人生の道を歩んで行きたいとおもっています。

ご静聴どうもありがとうございました。

「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

参加賞

あなたは架け橋になっていますか？

大阪大学
外国語学部 日本語専攻

劉 娟(中国)

(世話クラブ：大阪北梅田RC)



「日本留学を終えたら、どんな人になりたいですか？」のような質問は多くの面接で聞かれます。そのような質問に対し、「私は、日本で学んだことを生かして、日中友好の架け橋になりたいとおもっています。」という中国式の模範回答があります。私もよく使っていました。

しかし、正直に言うと「日中友好の架け橋」はどのようなものかあまりわかりませんでした。更に、将来「架け橋」になろうということについても真面目に考えたことがありませんでした。

「架け橋」は一体何でしょうか？

「日中友好」は何でしょうか？

私は日本という国に親しく感じたため、5年前に中国から来日しました。最初の2年間は日本語学校で勉強しました。その後、大阪大学校外国語学部に入り、日本語を専攻として勉強しています。日本語が好きで日本語を勉強し始めたのですが、日本語ができて人との付き合いから楽しさを初めて実感したのは日本語学校時代のことです。そこでたくさんの韓国人留学生と出会いました。みんなが英語が下手だったため、日本語しか共通語はないという環境でした。しかし、私達はなんとか日本でいつの間にか不自由なくコミュニケーションが取れるようになりました。そのとき、日本語があつてよかったと心底から思いました。初めて日本語勉強の楽しさは能力試験でいい点数を取ることだけではなく、日本語を使って誰かと仲良くなり、友達になることも大変面白いと思えました。

日本語学校を卒業してから、大学に入り、寮の生活が始まりました。日本人学生とも仲良くなれるかと思っていたら、日本人学生達は日本語学校で全く習ったことのない日本語を話していました。

Aさん：今日の授業スゲー眠たかった。

Bさん：寝たし

Aさん：昼なにする？

Bさん：めんどくせーなー

Aさん：ラーメンにしようか

Bさん：またかよ！

このような会話のときに、私は「今日の授業すごく眠たかったですね」という話し方をしたら、少し周りの日本人学生に仲間はずれにされるような気

がします。大阪弁もときどき使い、「そうなんや」や「スゲー」など言っています。そうすると親しみが湧く感じがします。

これで、私はやっとな若者の言葉に慣れたと思ったら、また問題が出て来ました。ある日、先生と一緒に食事をするようになった時、私は思わず「うめー」と言いそうになり、慌てて「うまい」と言いました。そうしたら、「リュウさん、こういう時は「おいしい」というのですよ」といわれました。後で友達にこの話をして「やっぺー」と笑いました。

大学で、「最近、日本人学生の日本語は乱れています。留学生の日本語の方がきれいだと感じます」とほめてくれた先生もいます。しかし、実は、日本語の使い分けに頭を使って、非常に苦しんでいるんです。私が、その使い分けに一番苦労しているのは、バイトです。侵食店でバイトをしていますが、そこでは外来語を含む業界用語やお客様への敬語が、まるで早口言葉のようになっています。

「店内でお召し上がりでしょうか？」

「はい、チキンバーガー二つください」

「チキンバーガー、お二つでよろしいでしょうか？」

「はい」

「ツーチキン、イートで」

といった具合です。

日本に来る前、私は、将来「日中友好の架け橋」になろうと思っていませんでした。「架け橋」は行ったり来たりしてこそ、意味があることになると思っています。日本に来て今、様々な人と日本語で気持ちや情報を行ったり来たりさせることによって、私から周りの人へ橋を架けているような気がしています。勉強に使用している日本語、友達と話す日本語、バイトで使う日本語など、私がいろいろな日本語を使い分けているのは、相手によって形の違う橋を外に架けているということなのだと思います。

私は、自分の知っている中国のことを周囲の人に伝えていくうちに、いつの間にか、既に日中の架け橋になっているのかもしれませんが、もちろん、私は決して大きなことは話せない狭い橋ですが、一人一人の暖かさを感じて交流しています。このような架け橋なら、きっと誰にでもなれるのではないのでしょうか。

「第2回米山奨学生スピーチコンテスト」作品

参加賞

米山奨学生として感じたこと

大阪大学大学院
工学研究科応用化学専攻

ウンドス(中国)

(世話クラブ：大阪そねざきRC)



皆さん、こんにちは。私はウンドスと申します。中国の内モンゴル自治区出身の留学生です。まず、この場を借りまして、昨年3月11日に起きた東日本大震災によって被害された方々、現在でも大変な生活に強いられている方々にお見舞いを申し上げますとともに、早期復興・復旧を願っています。

私は中国の内モンゴル自治区出身のモンゴル人です。留日して、初めて会った日本人に、「出身はどこですか」と聞かれて、「中国の内モンゴル出身です。」と答えると、相手から、「ああ、モンゴル、朝青龍、白鵬の国ですか。相撲は強いのですか」などの返事がしばしば戻ってきます。実は、モンゴル国は、一つの独立した国で、内モンゴルというのは中国領内のひとつの自治区であり、私たちモンゴル人は、中国の56少数民族のひとつです。いまからちょうど百年前の孫文による辛亥革命で、モンゴル民族を統治していました清朝が倒れますと、モンゴル民族は独立しようとしたが、実現できず、外モンゴルと内モンゴルにわかれ、その後、外モンゴルは独立し、現在のモンゴル国になり、内モンゴルは中国共産党の支配下に入り現在に至っています。そして、話し言葉は、どちらも同じですが、書き言葉は違います。モンゴル国では、1945年にロシア語を基いたキリル文字へ変更する決議が打ち出されて、翌1946年に学校教育と出版物など全面的にキリル文字が使用されるようになりました。その一方、私の出身地の内モンゴルでは、縦書きである上に、左から右へと書き綴られる伝統的なモンゴル文字を現在まで使用し続けています。

米山奨学生になって、半年が過ぎています。米山奨学生になる前は、大学の研究室、部活動、サークルやアルバイトと言った集団や組織の中で活動し生活していました。そして、去年の4月から米山奨学生となって、ロータリーと言う特別な枠組みに参加し、現在まで、お世話になっていま

す。会員の方々は、みんな人生経験豊富で、それぞれの人生の中で成功していたり、各業界における名人だったりしている人達です。彼らは、世界のためによいことをしようという一つの志を持って集まり、距離を越えて、そして皮膚の色を超えて、世界中の貧しい人や援助を必要としている人たちを支援するなどの奉仕活動を行なうことを通じて、世界中の人々と交流を、そしてさらに、ロータリー精神を広げていくという志を同じくする枠組みを形成しています。そして、私は、初めてこのような素晴らしい枠組みの中に、一人の奨学生として参入しました。私は、所属クラブである大阪そねざきRCの例会に毎月一回参加させていただいています。毎回の例会で、自分のカウンセラーおよび他の会員と話したり、人生の大先輩たちの人生物語、そして、例会での卓話などに目を輝かせながら耳を傾けたりして、普段の学校生活などでは、とても勉強できないこと、例えば、社会に適應できる話し方、人生の歩み方などについて話を伺うことで、成功するために、自分はこれから何をすればいいか、そして壁にぶつかったときにどんなふうな気持ちや行動などこれまで考えもしなかったこと、そしてこれからの人生の中で非常にためになることについて勉強させていただいています。まさに、ロータリアンは、一人ひとりが私の人生の模範となつて、私をもっと立派に成長する一つの動力源となっていると言っても過言ではありません。いま私の胸の中は、ロータリアンに対する感謝の気持ちでいっぱい、ロータリー奨学生になってから経験したことは、一生の財産となるに違いないと考えています。そして、私自身も「人々にしてほしいとあなたが望むことを、人々にもその通りにせよ」という米山梅吉翁の御言葉を銘記し、将来、機会があったら、ぜひとも、ロータリーのような奉仕活動をさせていただき、奉仕精神や奉仕活動の輪をもっと広げていきたいと考えています。

最後に、まだ早いですが一年間の多大なる応援をいただきありがとうございます。そして、私は、この縁を一生大事にしていきたいと強く思っています。

どうもありがとうございます。

ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2010年度会計収支決算報告書

2010年7月1日～2011年6月30日

単位：円

●収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	838,764	
特別補助金	730,000	2660 地区
会報補助金	87,045	米山記念奨学会
会費収入	40,000	
總會収入	266,000	
總會補助金	48,000	米山記念奨学会
春懇親会収入	79,000	
春懇親会補助金	33,000	米山記念奨学会
利息収入	239	
寄付金収入	10,000	近藤雅臣様
総計	2,132,048	

●支出の部

科目	金額	備考
運営費	197,106	
事務用品費	2,469	
交通費	16,210	
会報作成費	174,090	
寄付金支出	100,000	東北大震災
總會費用	532,099	
春懇親会費用	152,370	
通信費	37,720	
雑費	1,910	
次年度へ繰越金	918,074	銀行：839,323、現金：78,751
総計	2,132,048	

学友会(関西) 会計: 李麗愈 (2011年7月17日)

会計監査報告:

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査: 莊園 福松 (2011年7月17日)

特別個人寄付に感謝いたします。

ロータリー米山奨学生学友会(関西) 2011年度会計予算(案)

2011年7月1日～2012年6月30日

単位：円

●収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	918,074	
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
会費収入	40,000	
總會収入	250,000	
總會補助金	50,000	米山記念奨学会
秋懇親会収入	80,000	
秋懇親会補助金	30,000	米山記念奨学会
利息収入	500	
総計	1,468,574	

●支出の部

科目	金額	備考
運営費	200,000	
事務用品費	5,000	
交通費	20,000	
会報作成費	200,000	
總會費用	500,000	
秋懇親会費用	200,000	
通信費	40,000	
寄付金支出	20,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	273,574	
総計	1,468,574	

学友会(関西) 会計: 李麗愈 (2011年7月17日)

活動報告

活動は主に2660地区主催活動、学友会主催、参加したでございます。多数のご参加をお待ちしております。

2011年	
2011/07/17(日)	2011年度総会及び新規奨学生歓迎会
2011/07/17(日)	第一回役員会
2011/10/16(日)	米山奨学生レクリエーション大会
2011/11/10(木)	RI2660地区大会米山学友OB歓迎晩餐会
2011/11/11(金)	RI2660地区2011～2012年度地区大会 友愛広場でお茶コーナー設置
2011/11/12(土)	RI2660地区2011～2012年度地区大会
2011/11/26(土)	秋懇親会 六甲山牧場散策
2011/12/3(土)	第十回ロータリーX'mas in USJ(大阪ユニバーサルシティRC主催) 施設の児童を招待し、学友会は1日親として応援
2011/12/3(土)	RI2660地区第2回米山学友、ロータリー財団学友合同忘年会
2012年	
2012/01/15(日)	米山奨学会選考試験の応援
2012/01/29(日)	2012年米山学友会役員新年会&第2回役員会
2012/2/18(土)	国際ロータリー第2660地区 第2回 米山奨学生スピーチコンテストに参加
2012/2/26(日)	地区奨学金委員会主催の米山奨学生修了者歓送会に参加
2012/4/12(木)	地区奨学金委員会主催の新規奨学生オリエンテーションに参加

リンク集

ロータリー関係

(財)ロータリー米山記念奨学会
ロータリー・ジャパン・ウェブ
国際ロータリー 2660地区

<http://www.rotary-yoneyama.or.jp/index.html>
<http://www.rotary.or.jp/>
<http://www.ri2660.gr.jp/>

日本国内の米山学友関係

学友会 2550地区
学友会 2570地区
学友会 2600地区
学友会 2620地区
学友会 2650地区
学友会 2680地区
学友会 2730地区
学友会 2760地区
学友会 2780地区
学友会 2800地区
学友会 東京

<http://tochigi2550.web.officelive.com/default.aspx>
<http://www.rid2570.gr.jp/yoneyama/>
<http://www.yoneyama-gakuyu.rid2600.org/>
<http://sites.google.com/site/alumni2620/>
<http://www.geocities.jp/yoneyama2650/syougakusei/s-frame.html>
<http://gakuyu.ri2680.org/index.html>
<http://www.kuronowish.com/~2730-yoneyama/>
<http://www.geocities.jp/gakuyuukai2760/>
<http://www.ry2780.rotary.bz/2010/index.htm>
<http://rotary2800union.sakura.ne.jp/>
<http://www.rotary-yoneyama-ob-tokyo.jp/>

海外米山学友会関係

中華民國扶輪米山會 (台湾米山学友会)
韓國ROTARY米山記念奨學學友會
米山記念奨学会中国学友会(中国米山学友会)

<http://www.yoneyama.org.tw/>
<http://www.yoneyama.or.kr/>
<http://www.china-yoneyama.com.cn/>

学友会(関西)HPのアドレス

新HP：<http://yoneyama2660.com>

旧HP：<http://ri2660k.memopad.org/>

募集要領 (2012年度会報)

米山学友会関西地区奨学生の皆様

本学友会の活動をまとめる会報第29号の入稿についてお願いいたします。

入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと」どちらかを選んでください。
字数・枚数	約 1000 字
内容	基本的には自由（エッセー、感想文なども可）です。 ※毎年研究レポートを提出される奨学生がいますが、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2012 年 10 月 30 日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿は PC メールでの入稿をお願いします。※メールアドレス：yoneyama2660@gmail.com
注意事項	<ol style="list-style-type: none">1. テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。2. テーマの下に、所属大学及び専攻、名前、国籍と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例：〇〇〇〇大学〇〇専攻 日本花子(日本)、世話クラブ：〇〇〇〇RC)3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。4. 提出期限を厳守してください。5. 作文を提出する際、顔写真(JEPG)も一緒にお送りください。出来ない場合、上記のメールアドレスまでご連絡下さい。

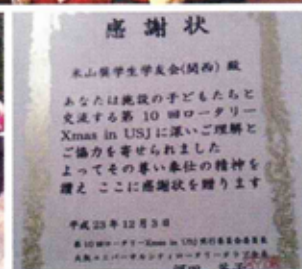


● 学友会総会



● スピーチコンテスト

● 宝塚歌劇



● 第十回ロータリーX`mas in USJ (大阪ユニバーサルシティRC主催)

● 秋懇親会(六甲山牧場)